

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290400112		
法人名	社会福祉法人 多伎の郷		
事業所名	グループホーム はなんぼの里(ひびき)		
所在地	島根県出雲市多伎町口田儀750		
自己評価作成日	令和2年2月16日	評価結果市町村受理日	令和2年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成30年4月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日々の生活の中で個々の体調の変化に注意し、残存機能を維持出来る様にその人に合った生活リハビリ、手作業を取り入れて笑顔で楽しく自信を持って生活出来る様に支援しています。運動会などのイベントを通じて園児や小中学生とも世代をこえた交流を行っています。運営推進会議で出たご意見・ご要望には速やかに対応するよう、業務改善に努力しています。認知症介護の経験が豊富な職員を中心に、職員全員で力を合わせてチームケアの推進に努めています。業務中心ではなく、利用者の生活リズムに合わせたケアに取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

田儀川とJR山陰線が交差し、日本海が望める国道沿いの風光明媚な地に開設14年目を迎えるホームはある。2年前に施設長が交代し、新しい風が吹き込まれ、楽しくあたたかなホーム作りがなされている。中庭の芝生の上で日光浴しながらお茶会を楽しんだり、散歩したりなど日常的に活動を支援している。時々行う利用者さん手作りの食事では、職員にサポートされながら、料理に勤しむ姿が見られる。重度化した利用者さんには、医療福祉の協力で看取りをしている。地域の祭りである花馬さんは、ホームに毎年巡回して利用者さんと触れ合う。また、とんどさんや、消防団の出初式なども身近に見ることが出来る。認知症の方へのケアについての講習を地域住民にも開催するなど、社会福祉法人の理念である地域に密着した福祉にホームも取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【地域に根差した施設】であり続ける為に日頃から地域や家族の方との交流を大切に、外出先で出会った方との関わりや訪問者とのふれあいの時間を大切にするよう日々意識している。	ホームの理念「家庭により近い・その人らしさ・安心・力の発揮」は、目に付くようにホームの随所に掲げられており、ホーム長、職員は利用者さんの笑顔を理念の実践の証ととらえ、明るいホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	秋の田儀地区の祭では、花馬の花折りから参加し当日は完成した花馬が施設にも立ち寄り、入所者の方々も見物できるように、地域の方の心遣いを受けている。また地域の催し物には可能な限り出掛けるようにしている。	法人母体が、地域に根を張り、住民の信頼を得ていることから、地域との付き合いは良好であり、行事参加だけではなく、野菜の差し入れや友愛訪問など、日常的に、積極的な交流が図られている。障害福祉の事業所から掃除作業の人々も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや地域の方を交えての勉強会を行っている。また、地域の子供たちと触れ合う機会を持つことで、認知症の方との関わりが特別なものではないことを感じ取ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見や要望は、詰所会議で全職員に報告し改善策を話し合ったり、サービスの質の向上に向け職員の意識統一につなげている。	会議では、家族代表からの意見も活発に出されており、利用者さんがホームでの暮らしを豊かに過ごせるようにアイデアを提案している。外部からの参加者は、ボランティアの受け入れについての協力や、ホームの事業計画案などについても助言されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適時に市担当部署を訪問し、困ったことなどを協議・検討し、問題点はその都度解決するなどして常にサービスの質の向上を目指すよう取り組んでいる。	市の担当職員とは顔の見える関係を築いており、最近では、新制度である他圏域からの入居の事例などで綿密な相談助言をうけて、スムーズに入居されたと聞く。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する事業所内研修会を実施し、全職員が正しく理解できるよう努めている。玄関の施錠については、利用者の安全を確保した上で解放に努めている。	コミュニケーションの中での言葉使いや人間関係のあり方が、利用者の尊厳を傷つけたり、自由を奪うことがないように、新人職員には研修を行い、また、ベテラン職員も常に意識できるようスーパービジョンを行っている。今一度接遇マナーについての意識も高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のユニット会議で、1か月間を振り返り自身自身の行動や見かけた行為で虐待に繋がりそうなことを話し合う。また、お互いの気持ちを伝えあうことでストレス軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する事業所内研修は行っていない。今後、外部の研修に参加して施設内の研修をする予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って説明している。特に利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制等の実際などについて詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には家庭通信や面会時、家族会等で常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見・要望等は職員で話し合い、反映させている。	家族の面会は頻繁で、職員ともいろいろなことを話し合う機会が多い。そこから、意見や提案もあり、ホームとして柔軟に個別に対応している。面会に来られない家族については、家庭通信や電話などで、連絡を密にして、意見などを聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会などで意見を聞くようにしている。管理者は職員の意見や要望を聞くように心がけている。	職員は、意見を言いやすい雰囲気であり、出された意見は採用して、まずやってみて、評価し合い、ケアや運営の改善、向上に向けて取り組んでいる。職員一人一人の個性や力量が活かされることで利用者さんの豊かな暮らしを支えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員登用試験、資格取得の支援や取得後の昇給等により向上心を持って働けるよう努めている。代表者は日頃より個々の職員の話をよく聞き状況を把握すると共に、産業医として健康診断に基づいての指導・アドバイスをやっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験人数に応じた内容の研修に参加してもらい、詰所会議で報告して全職員のスキルアップを図る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で毎年開催される、研究発表会に参加することで、各施設の1年を通しての取り組みを聴き、それを現場に反映できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の暮らしの中で、本人への声掛けを増やし、何気ない会話を通して、思いをくみ取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会の際には、「何か気になることはありますか。」と声をかけ、なるべく不安なことは早期に解消してもらうよう努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所することが本当に必要かどうかを本人、家族、必要に応じて今まで関わってきた在宅のケアマネジャーや施設・病院の相談員等と検討し、その方にとって一番良い方法が取れるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話を聞くだけでなく、職員の近況報告や悩みごとを打ち明けたりと家庭的な雰囲気づくりに努めた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望を聞くと共に、職員が日頃どのような思いを持って本人さんに接しているのかを話すようにした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時には行きつけの美容院へ行ったり、店での買い物の支援を行っている。場所によっては職員の対応で困難な時には家族の協力を得て実施している。しかし、外出が困難になりつつある方には支援についての検討が必要である。	入居の際には、自宅訪問をし、利用者さんの生活エリアを把握している。ホームからいつでも自宅周辺に行ったり、家での法事など家族が集う場にも職員がケアのために同行して付き添うなど今までの関係が保たれるよう援助している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で楽しい時間を共有したり、力を合わせて同じ作業を達成することで良好な関係になるよう努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族の希望がないので実施していない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などから思いなどを確認するようにしている。家族からの情報を参考にしている。	ご本人だけでなく、ご家族からの聞き取りも熱心に行い、本人が表せない思いや、希望を汲み取るように常に気にかけている。利用者さんは、自然な表情で、自由に行動しており、管理されることのない、穏やかな暮らしができる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活スタイルについて、本人や家族から情報を得て本人が得意としていることや、日課として行っていたことを継続して行ってもらえるよう、個別支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースを把握した関わり方を常に意識し、個々の時間と他者との関わりの時間のバランスを重視している。また、役割を通して一人一人が活躍できる場の提供を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のユニット会議の中で、それぞれの課題を話し合い、現状で可能な限りの心地よい生活をめざした。	本人や家族もともに、ニーズを話し合っ、担当職員やケアマネージャーが介護計画を立てる。実践についても、常に介護計画と照らし合わせており、状況の変化に応じて、変更をおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	以前より連絡ノートやカンファレンスノートの活用が有効なものになってきている。情報を職員間で共有することで統一した支援が可能になりつつある。感じた問題点について共有することで新たな解決策を導き出すことが可能になってきた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族等の状況に応じて通院・往診など必要な支援は柔軟に対応している。同法人内の他の事業所との連携も図られており、多機能を活かした支援がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容の方が送迎したり訪問してくださる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を基本としており、体調の急変時には往診依頼もなされている。かかりつけ医の利用を基本とした適切な医療が受けられるような支援がなされている。	利用者さんは、希望する病院を受診することが出来る。家族との連絡も日常的に行われており、健康面や医療面、安全面についても安心度が高い。多岐町や大田市に協力医療機関があり、緊急時にも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定など 体調の変化、些細な表情の変化を見逃さないようにし、変化等気づいたことがあれば看護職員に報告し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	該当事例なし		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」を作成し、利用者、家族に説明し同意を得ており、職員体制も整えられ、複数回の終末期の対応、看取りがなされている。	ホームが終の棲家となれるような取り組みが行われている。看取りについての詳細なマニュアルを作成し、病気や怪我など、予測はつきにくいですが、利用者毎の状況に応じて、柔軟な対応が可能である。看護師や協力医など法人母体の協力体制が大きな支えになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元の消防署の協力を得て、自衛消防訓練を利用者と共に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、自衛消防訓練(総合訓練)を行った。今後も定期的に運営推進会議委員にも訓練に参加してもらいたい。防災訓練のマニュアル等は作成したが、実際の訓練はしていない。	防災訓練は、裏山からの土石流を想定した訓練を含めて年3回行っている。法人、地域住民の協力の下で、非常災害時の対策に熱心に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じことを繰り返し訴えるご利用者に対し、丁寧な対応ができないことがある。会話を記したノートの実用を検討している。	ドアはノックや声をかけて入室する、排泄の声かけは、周りにそれと悟られることのないよう気をつけるなど、基本的なことから、楽しい会話や、レクレーション時の話し方でも、尊厳を損なうことのないように丁寧な言葉遣いに心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団生活のスムーズな流れを重んじるあまり、個々の希望や決定が後回しになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりとゆっくりと話す事で、本人がどのように過ごしたいのかを聞いている。そして、希望に添えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは気を配っているが、男性利用者の髭剃りがおろそかになっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中から、「食べたいもの」などを知り、食事やおやつ作りの参考にしている。	調査の日は、小豆あんときなこのおはぎで季節感のある献立を利用者さんとともに手作りしていた。食事は職員もともに会食して、会話の弾む和やかでゆったりとしたものだった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が体調、体重などを見ながら調節している。水分摂取は飲み物のメニューを書き出し、好きなものを自由に飲めるよう工夫している。1000～1500mlを目標にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要なご利用者に関してはケアできるが、自立の利用者への声掛けが不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのリズムに合わせて、排泄への声掛けをしている。排便チェック表を活用し、排泄パターンを知ること、トイレで排泄ができるよう支援している。	入居後、2週間から1ヶ月程度で、排泄のパターンは把握できるという。その後は、トイレでの排泄を誘導している。状態によってはおむつやポータブルトイレを使用することもある。ホームのトイレは清潔で、排泄物の匂いはまったくない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲食物を摂って貰い、水分量が1000～1500mlになるように心掛けている。体操・レクリエーション等を行い、体を動かしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否のご利用者に対し、拒否の理由を探る努力をしながら、声掛けの仕方やタイミングを考え、週2回に入浴に努めた。	入浴は夕方行われており、浴後寝間着に着替える方もいる。動作の能力に応じて職員は介助しており、一人一人入るなど、プライバシーも護られている。楽しいお風呂になるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態を把握しながら、日中なるべく活動してもらい、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、確認できるようになっている。服薬変更の際には状況の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	積極的に役割を求めるご利用者に対し、『何ができるか』を常にチームで考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて、散歩・ドライブ・買い物・墓参りなどの支援を行っている。併設するデイサービスの行事にも参加している。	自然豊かなホーム周辺の散歩、食材や日用品、時には好みの洋服や趣味の品物などの買い物、観光やドライブなど、利用者さんが楽しめるように日常的に外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には自己管理をしてもらい、可能でない方にも、個人の財布を準備し、買い物等の際には自分で支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は、介助・見守りなどしながら電話してもらい、手紙等自由にやり取りできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間について、清潔を保てるようこまめに掃除やチェックを行っている。	ホーム全体に木をふんだんに使用した和洋折衷の建築であり、落ち着いた雰囲気がある。明るく清潔なホールの壁や棚には、季節の花や、利用者さんが楽しんで取り組んだ作品が飾られており、我が家、我がホームとしてのぬくもりがある。テラスに続く広大な芝生の庭でひなたぼっこやお茶会、畑園芸、軽運動をする。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に、ソファや椅子、テーブルなどを配置して工夫している。居心地良く、落ち着いた居室を目指している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や見慣れた写真等を持ってきてもらい、居心地良く過ごしてもらえるよう工夫している。	床も壁にも木が使われ、落ち着いた室内は、プライベートにくつろぎ、自分の時間を楽しめよう、タンスや机・椅子に小物や壁飾りがされている。ひとりひとりの個性を尊重したしつらえになっている。案内して下さった利用者さんも個室を自分の部屋として、なじんでおられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に応じて環境整備を行い、安全で自立した生活が送れるように対応している。		